

1 日時 11月8日(金) 5・6時限(13:30~14:20、14:30~15:20)

2 場所 大阪府立 高等学校 本館4階 工芸教室

3 学年 第2・3学年選択者

4 教科・科目 芸術・学校設定科目「染織陶芸」(2単位)



5 講座構成 18名(3年男子3名・3年女子12名・2年男子1名・2年女子2名)

6 題材名 蓋物・香合の制作

7 題材設定の理由

陶芸課題は、コップ、皿を制作し用途のあるものづくりを経験してきた。その中で、実用性を考えたデザイン力、形をつくる表現力を養ってきた。この課題は、蓋物という上下の形が合わさる精密さが問われる。その上で、個々の想像力を発揮し実現可能なユニークな形に取り組んでもらい、造形する難しさと面白さの両面を実感する機会になってほしいと考える。

8 題材の目標

- ・課題内容を理解し、実用性と美しさを考えた形態を学ぶ
- ・アイデアの発表を通じ、言葉での表現力、伝える力・聴く力をのばす

9 計画 総時間数 4時間(アイディアスケッチ・発表1時間、制作3時間)

10 準備 生徒 筆記用具(鉛筆、消しゴム)

指導者 参考作品、課題プリント、陶土、陶芸用用具一式

11 評価の観点及び趣旨

《美術・工芸への関心・意欲・態度》

陶芸の本課題に興味をもち、内容を理解し、意欲的に制作に取り組んでいる。

《発想や構想の能力》

自己のイメージを、形態や装飾の効果を考え表現することを構想できる。

《創造的な技能》

作業が丁寧であり、陶土の特徴を理解し工夫した表現ができる。

《鑑賞の能力》

他者の発表を聞いたり、作品を鑑賞したりすることで、自己の作品の反省点に気付くことができる。

また、他者の感じ方、考え方を理解し、お互いの考えを認め合うことができる。

12 科目（半期）指導計画

到達目標	用と美を兼ね備え、生活に密着した染織・陶芸作品を制作することにより、工芸作品を愛好する心情と生活を豊かにする感性を育てる。
到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・創造する力を養うため、アイデアスケッチをしっかりと行う。 ・幅広く深い鑑賞能力を身につけるために、日本・世界の伝統的な工芸品、現代生活の中で使用されている工芸品を鑑賞する。 ・用と美を兼ね備える重要性和奥深さを感じ、「ものに対する」興味や関心、発見を引き出すために自ら制作した作品を実際に使用する。

月	題材・題材名	学習のねらい・学習活動	評価のポイント
10 11	陶芸 カップ・皿の制作	カップ・皿の制作を通じ陶芸の基礎知識…成形技法・加飾・釉薬などについて学習する。	・道具の使い方・素材の性質・技法を理解し、計画的に制作できる。
11 12	染め 型染めによる手ぬぐい制作	染色の基礎知識…染色技法・素材の分類等について学習する。	・用途、使用空間等を考え、機能的且つ、美しいデザインを創意工夫し追求できる。
1 2	織 裂き織りのコースター 縞織りのコースター	織のルーツ・繊維の分類等について学習する	・仕上げまで丁寧にかつ意欲的に制作できる。

13 本題材の学習指導計画(本時は1・2時間)

時間	○学習のねらい □学習活動	指導上の留意点	評価の観点・方法
1	<p>○実用性を考え、陶土で実現可能な形態をさぐる。</p> <p>□課題の理解：課題プリントに下描きする。</p> <p>○考えた形を言葉で他者に伝えさせ、表現力、伝達力を養うことと、他者の発表を聞くことにより、聴く力を養う。</p> <p>□アイデアを皆の前で発表する。(一人1分程度)</p>	<p>・参考作品と課題のプリントでしっかりと課題の内容を把握させる。</p> <p>・アイデアスケッチは複数描かせその中から作るものをきめる。</p> <p>・発表時の聴く姿勢を整え、大きな声で発表するよう指導する。</p>	<p>◎制作内容を理解し、興味を持って取り組もうとしている。</p> <p>▲積極的にアイデアを描きだしている。</p> <p>◎他の生徒に分かりやすく伝えられている。</p> <p>★発表している生徒の説明を熱心に聞いている。</p>
2	<p>○素材の陶土の性質を考えながら、手順通り進める。</p> <p>□自分のアイデアに沿って形を成形していく。</p>	<p>・素材・道具類の丁寧な扱い、適切な扱いを周知する。</p> <p>・部分にとらわれず、全体の形に注意するよう指導する。</p>	<p>◆素材、道具の使用方法が適切に行えている。</p> <p>◆アイデアに沿って、自分の制作を進めることができている。</p>
3	<p>○乾燥の程度を見極め形の削りだしを行う。</p> <p>□蓋物の特性、上下の形が合うように削っていく。</p>	<p>・細部の丁寧な仕上げと、上下の形が合わさることを確認しながら作業することを指導する。</p>	<p>◆道具類を適切に扱い、削りだしができている。</p>
4	<p>□模様や細工を施す。仕上げ</p> <p>・細工をしながら仕上げのため全体をみて形を整える。</p>		<p>◆全体のバランスを観察し、丁寧な仕上げができている。</p>

※焼成後、互いの作品を鑑賞する時間を設ける

◎は《美術・工芸への関心・意欲・態度》

▲は《発想や構想の能力》

◆は《創造的な技能》

★は《鑑賞の能力》を表す

14 本時の学習指導計画

時間	学習活動	指導上の留意点	評価方法・留意点等
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・号令、出欠点呼 ・題材、参考作品の準備 ・プリント配布 ・説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考作品を示し今回の課題の出来上がりをイメージさせる。 	
展開① 20分	<ul style="list-style-type: none"> ・作品のアイデアを描きだす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1つのアイデアだけでなく複数描きだすように指導する。 	《美術・工芸への関心・意欲・態度》 <ul style="list-style-type: none"> ・制作内容を理解し、興味を持って取り組もうとしている。
展開② 20分	<ul style="list-style-type: none"> ・発表手順の説明 ・自分のアイデアを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1人ずつ前に出て来させ自分のアイデアを分かりやすく言葉で伝えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の生徒に分かりやすく伝えている。 ・発表している生徒の説明を熱心に聞いている。
休憩 10分			
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ・陶土を配布する ・自分のアイデアに沿って制作を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・立体作品なので、一方向だけでなく、上下左右から形を確認するよう注意する。 ・適宜道具の使用を勧める。 	《創造的な技能》 <ul style="list-style-type: none"> ・素材、道具の使用方法が適切に行えている。 ・アイデアに沿って、自分の制作を進めることができている。
まとめ 片づけ 10分	まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・次回の制作手順の確認 片づけ ・作品は丁寧に扱い、保管場所に置く。 ・道具類を洗い元の場所に返却する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力して片づけるよう指示する。 	《美術・工芸への関心・意欲・態度》 <ul style="list-style-type: none"> ・本日の授業を振り返り、成果と課題を確認し、次回に活かすことができる。



15 本題材の評価及び評価の総括

《本題材の評価》

観 点	美術・工芸への 関心・意欲・態度			発想や構想の能力				創造的な技能				鑑賞の能力			本 題 材 総 合 点 計	
	観察法による 評価			点 数 計	作品と観察法に よる評価			点 数 計	作品と観察法に よる評価			感想用紙 からの 評価		点 数 計		
名 前	一 /10	二 /10	三 /5		一 /10	二 /10	三 /10		一 /10	二 /10	三 /5	一 /10	二 /10		計 /25	一 /10

《本題材の評価の総括》

観点	美術・工芸への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力	総計
A+	24, 25	29, 30	24, 25	19, 20	96~100
A	22, 23	26~28	22, 23	17, 18	87~92
B+	19~21	23~25	19~21	15, 16	76~83
B	15~18	18~22	15~18	12~14	60~72
C	10~14	13~17	10~14	9~11	42~56
C	6~10	7~12	6~10	5~8	24~40
C-	~5	~6	~5	~4	~20